

園長だより

朝夕の寒さも厳しくなってきましたが、日中は
お日様の陽ざしが心地よく穏やかに過ごせる日
もあります。こどもは風の子と言うものの、やは
り暖かい日差しの中で活発に遊ばせてあげた
いものです。

3歳児以上は生活の中で劇遊び、劇活動が
中心的な活動となってきました。取り組む題
材も決まり、演じる(お話を基に遊ぶ)ことと
大道具づくりなどにも取り組みはじめました。

我が子がどんな劇をするのかなと関心がある
方も多いことでしょう。

おおぞら保育園で題材の選定については以
下のように考えています。

大まかな概略ですがお知らせ致します。

子どもにとっての劇活動

劇の題材はどう考えているの

取り上げられている題材、子ども達の
劇のベースは主に絵本です。おおぞらでは
主に昔ばなし、(語り継がれているもの)
ストーリーが子ども達にわかりやすい内容
が基本になっています。

各年齢の主目標やめあてを子ども達の育
と照らし合わせて実践するには、子どもの
地点に立ち、活動するために適した、題材
を選び、選ばせてあげることが必要です。

昔話

お話が起承転結 お父さんもお母さんもみな
な知っているもの。聞き手の子ども達、みな
なにわかりイメージの共有がしやすいもの。

こどものよみとりやすい内容(本の一例)

劇あそびでとりあげているもの

- ・3びきのやぎのがらがらどん
- ・おおきなかぶ
- ・てぶくろ
- ・さるじぞう
- ・かにむかし(さるかに合戦)
- ・ねずみのよめいり
- ・おおかみと七ひきのこやぎ
- ・ブレーメンの音楽隊
- ・ポンタのじどうはんばいき
- ・どうぞのいす
- ・かちかち山
- ・三匹のこぶた
- ・ももたろう
- ・おむすびころりん
- ・かさじぞう



さあ、みなさんはいくつのお話を知ってい
ますか？

ほとんどが子どもの頃に読んだことのある
または読んでもらったことがあるお話と
思います。子ども達が好きな絵本(話)は
みんなが話の内容を理解できる筋書きが
あります。起承転結に又はおおきなかぶの
ように繰り返し進んでいくもの、子ども達
は、心地よく大人に読み聞かせてもらうな
かでお話のストーリーを理解していきます。

長編(昔話他)

劇の題材には近年出ていないもの

子ども同士のイメージの共有や劇作りには
丹念な活動内容の工夫が必要です。
場面の多さや興味、対象の違いがあり、話し
合いが進められない等、子ども達にゆだねた
活動が展開されにくいものがあります。
先に上げたものより大人が、保育者が入りす
ぎる、(あれこれと指導する)傾向にあります。

長編の場合、ピアノ伴奏、音楽を加えたオ
ペレッタ、音楽劇というものが主流で、大人
が構成したもので進めます。市販のマニユ
アルもあり、大人が管理、指導する傾向が強い
とされています。

おおぞらでは子ども達にゆだねた活動が展
開されることを期待し長編のものは近年、題
材に選定していません。

- ・ピノキオ
- ・シンデレラ
- ・アリババと盗賊
- ・おやゆびひめ
- ・人魚姫
- ・ピーターパン
- ・白雪姫
- ・アラジン
- ・オズの魔法使い
- ・長靴をはいた猫 等

題材について述べてみましたが子ども達
みんなにわかりやすい内容の絵本をなぜ選ん
でいるのか5歳児の姿からお伝えします。

5歳児から

5歳児では仲間と共につくりあげていくこ
とを願っています。できるだけ子ども達に活
動をゆだね。思いや考え、気づきを活動のな
かで出し合い取り組んでほしいを願っていま
す。つくりあげていくプロセスを大切に考え
ています。指摘あり、けんかあり、試行錯誤
し、活動の中でおこった問題を仲間と解決し
てほしいとも願っています。子ども達が題材
となっている話のイメージを共有し、仲間と
作り上げていく楽しさを感じてほしいもので
す。ですから、劇活動の大筋を子ども達の手
ですすめていくために題材の選定は大切です。

長編よりも起承転結で子ども達のイメージ
が共有できることが望ましいと考えます。

3歳児の生活から

親が我が子の劇をみて育ちを理解する。ま
た、他の子どもの劇をみることでその年齢の
育ちや園の保育を理解してほしいと願ってい
ます。

子ども達は先生が読み聞かせてくれたお話
(絵本)をもとに遊んでいく、役になりきり、
先生とのかかわりを楽しみながら、友達と一
緒に遊んでいることを心地よく感じる。

前号でも触れましたが、そもそも、劇遊
び(活動)は発表を1番の目的にしていませ
ん。子ども達の遊びの中に個々が感じる楽し
さ、仲間と一緒に、先生と一緒に遊ぶ楽しさ
を感じ、遊びを通じて仲間との関係を育んで
ほしいと願い取り組んでいます。

特に3歳児は普段の遊びと等質のものが
発表会でみられ、普段の遊びの一コマが純粋
にでてくれればと思っています。

「あー 我が子はこんな遊びを先生やお友
達としているんだ」と感じていただき園生活
を大人の手を借りながらも、自分たちの手で
(年齢なりの)進められるようになってきた
と実感していただけたら幸いです。

この時期、生活の中で中心となる劇遊び、
この先の子どものみせてくれる姿にわくわ
くしています。

※園長だよりは当ホームページおおぞら通
信より閲覧できるようになりました。

(園長 廣部 信隆 10)